

Title	次号目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1967
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.60, No.3 (1967. 3) ,p.328(80)-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19670301-0080

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

Consumption and Golden Rule," *American Economic Review*, June 1965.
[6] Solow, R.M., "Comment," *Review of Economic Studies*, June 1962.
[7] Uzawa, H., "Optimal Growth in a Two-Sector Model of Capital Accumulation," *Review of Economic Studies*, January 1964.

次号目次

論 説

「社会主義経済学」の対象と方法 (一) 平野 絢子
——「過渡期の理論」について——
パタン・バーゲニングと賃金の平準化 佐野 陽子
ノイマン径路と技術進歩 市石 達郎

資料・研究ノート

Frohden について 宇尾 野久
ブルードンのウィーン体制観 (下) 後藤 修三

書 評

高島善哉著
『現代日本の考察——民族・風土・階級——』 飯田 鼎
マツカーティイ 著
リンドバーグ 著
『経済地理学序説』 高橋潤二郎
板東 慧著
『現代の労働組合』 小松隆二

新刊紹介

書 評

大河内一男先生還暦記念論文集第二集

『労働経済と労働運動』

飯田 鼎

本書は、東大総長大河内一男教授の還暦を記念して編集した論文集の第二集であり、主として労働運動と労働経済にかんする数多くの論文がおさめられている。内容は三部から成っており、第一部は、賃金および労働時間にかんする論文から成っており、第二部は労働組合運動を中心とし、三部は、ひろく日本の労働問題ともいべき問題をあつかっている。すなわち、

I

賃金構造の国際比較 藤本 武
企業間賃金構造 桜林 誠
日本の賃金水準と都市自営業 小池和男
労働時間短縮問題の経済的背景 山本 潔
複雑労働還元問題 下山房雄

書 評

II

アメリカ職能別組合の一考察——ジョンズ・ホプキンス学派の産業民主制論を中心として—— 神代和欣
産業国有化政策と労働運動——イギリス労働運動史の一研究—— 栗田 健

「アナ・ボル論争」考 白井泰四郎
陸軍の労組否認と団結権擁護運動 内藤則邦
労務管理と労働組合——団体交渉の「インパクト」に関連して—— 高橋 洸
組合分裂の組織的・法的処理について 藤田若雄
大学の自治——京大・滝川事件 塩田庄兵衛

III

経営の発達と労働 柳川 昇
経済成長と農業人口 山崎春成
現代日本の企業集中と労働問題 儀我荘一郎
日本の住宅問題 関谷嵐子
工業立地の新傾向——アメリカの高速道路時代の研究—— 高野源八郎

この豊富な内容を成す諸論稿について、ひとつひとつ紹介批判することは、まず第一に筆者の能力の制約があり、またその余裕もないのであるが、さまざまな興味ある問題が提出されているので筆者は三部から成る本書の各部分から一篇ずつをとりあげ、簡単な紹介および批評を行いたいと思う。